－都市樹木研究室－
街の樹木 News Letter

VOL.10　7月号
発行元：株式会社エコル
東京都港区高輪 3-4-1 高輪偕成ビル 8F
TEL:03-5791-2901 / FAX:03-5791-2902

都市樹木研究室
HP はこちら

樹木の干害（乾燥害）

近年、夏の暑さが厳しく熱中症患者の増加など人の生活に大きな影響を与えています。それは樹木にとっても同じであり、元々弱っている樹木に連日の暑さが追い打ちをかけ枯死してしまうといった事象も見られます。

干害（乾燥害）は樹木が枯れる主な原因の一つで、特に暑い夏の時期によく見られます。気温が高いと樹木は体温調節のために葉からの蒸散量を増やします。また、水分を必要とする光合成も活発になります。そのため水分の要求量は増えますが、供給量が足りない場合には様々な生理的な障害が発生します。

水分が足りない場合には、水を吸い上げる根から遠い部位に影響が出やすく、枝先から葉が小さくなったり、少なくなったりといった症状として現れ、症状が進むと枯れが見られるようになります。

枝先の葉が小さい

干害を防ぐためには、上記のような兆候を早期に発見し、原因を特定することで、枯れてしまう前に対策を講じることが重要です。
ここでは干害が生じやすい立地環境を紹介します。

Point1　水分の供給量が少ない環境

遮蔽物などの影響で降雨が当たらない、透水性のない舗装などで土中に水分が十分に供給されていないといった環境では、干害が生じやすいです。

Point２　土壌の保水力が十分でない環境

砂っぽい粒子の大きな土は、水分を保持する機能が低く乾燥しやすいので、このような場所に植えられている場合は、干害が生じやすいです。

Point３　根が十分に広げられない環境

根が広げられない狭い場所や土が固い場所に植えられている場合や樹木の大きさに対して土の深さが十分でない場合などでは、干害が生じやすいです。

樹木の倒木危険性の判断や処置にお困りの場合は、株式会社エコルまでご相談ください。
https://www.ecol.biz/

ECOL
みどりをつなぐ みどりでつなぐ